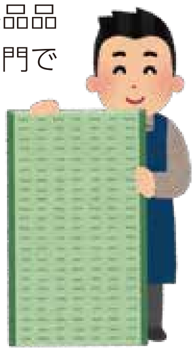
10/16 い草・い製品の品評会で3人が特別賞を受賞

JAやつしろ中央い製品集荷場において、第４５回熊本県い業大会（い草・い製品品評会）が行われ、い草部門１１８点、い製品部門１１６点が出品され、い製品部門で品質・規格など総合的な審査により、氷川町から３人が特別賞を受賞されました。

（特別賞を受賞された皆さま）

○農林水産省生産局長賞	早川　猛　さん	（北鹿野）
○農林水産省九州農政局長賞	松田 州平さん	（北野津）
○熊本県知事賞	松本 吉弘さん	（新　田）



10/28 八代市・氷川町・芦北町定住自立圏共生ビジョン

～首長懇談会～

全国的に人口減少が進む中、氷川町では八代市・芦北町と定住自立圏を形成し、定住促進に向けて様々な事業に取り組んでいます。

１０月２８日（月）には３市町の首長が集まり、共生ビジョン（５１事業）の進捗状況や今後の取組み予定などについて、首長懇談会が行われました。

定住自立圏共生ビジョンとは

近接する自治体が、様々な政策分野で協力し、「定住」のための暮らしに必要な生活機能を確保する、広域連携による取組みのことです。

３市町では、各自治体の自主性を尊重しながら、それぞれの取組みを積極的に展開し、誰もが住み続けたい、暮らしてみたいと思われるような魅力ある圏域づくりを目指します。

首長懇談会では、３首長から企業誘致促進や圏域内雇用促進、病児病後児保育施設などの事業について活発な意見交換が行われました。

また、令和３年度からの次期定住自立圏共生ビジョンについても、３市町で継続して取り組んでいく方針で合意しました。

▲町の取組みを説明する藤本町長

10/28 長年の活動に感謝　～人権擁護委員感謝状贈呈式～

役場庁議室において、永田俊雄さん（高塚）と守正信さん（河原）に対し、これまで人権擁護委員として長く活動されたことから感謝状の贈呈式を行いました。

永田さんと守さんは、平成１９年から今年までの１２年間、４期に渡って人権擁護委員を務められました。

感謝状を贈呈され、お２人は「人権擁護委員としての活動を通じて、自分自身の人権意識も高めることができた。４期続けることができたのも、皆さまの支えがあったおかげです」と話されました。

▲永田俊雄さん（中央）と守正信さん（中央右）

11/3～4 第15回氷川町文化祭

3日（日）に氷川町公民館で行われた芸能の部では、竜北中学校吹奏楽部の演奏で幕を開け、小学生の童話発表、保育園（所）のダンス・鼓笛隊・太鼓の発表がありました。

一般の部では、大正琴、二胡、日本舞踊、フラダンス、コーラスなどが披露され、見事な演技に会場からは大きな拍手が送られました。

宮原体育館では、２日間にわたり作品展示が行われ、さまざまな作品が並びました。趣向をこらした作品に、訪れた人たちは足を止め、じっくりと見入っていました。

▲コーラスの披露

11/3 稲刈り体験で実りの秋を体感

～もち米の学校～

道の駅竜北裏の田んぼでもち米の学校が行われ、町内外から約40人が参加しました。これはひかわツーリズムクラブが主催したもので、「農業への理解」と「食の大切さ」を知ってもらうために開催しています。参加者は黄金色に実った稲の収穫や脱穀を体験しました。

▲上手に収穫できました

11/5 藤本町長が氷川中・竜北中の３年生へ出前授業

中学３年生の社会科の授業において、自分たちが住んでいる地域の政治について学ぶため、町長が自ら教室に出向き授業を行いました。授業の中では、「なぜ町職員から町長になろうと思ったのか」、「ごみ減量化に向けて、どのような施策を考えているのか」など鋭い質問が多く、１問１問丁寧に答えていました。生徒たちは熱心に話を聞き、これからの氷川町について意見交換をする貴重な機会となりました。

▲たくさん町長に質問しました

11/7 バナナの木を発見！

若洲公園内の一角にバナナが植えてあるのを発見しました。これは、若洲地区の老人会が美化運動の一環として植えたものです。平成21年から100本ほど植えられており、今年から本格的に実がなり始めたそうです。

撮影時は実がまだ青かったですが、その後しっかり黄色く成長していました。

▲しっかり実をつけたバナナ